

花時計

文京ふるさと歴史館友の会事務局
(文京ふるさと歴史館内)

令和5年6月29日発行

●一葉あれこれ

中嶋 正文

歴史館周辺の史跡巡りでやはり人気は樋口一葉。桜木の宿、伊勢屋質店、終焉の地、そして菊坂下旧居跡。西片在住だった知の巨人立花隆も時には散策していたとか。足を延ばせば和歌・古典を学んだ萩の舎跡、さらにさらに遠出すれば旧上野図書館（現国際子ども図書館）。なんと一葉は上野まで徒歩で毎日のように通っていた。一葉の小説は言文一致ではない古風な文体でとても読みにくいのですが、音読すると語呂が良く格調高い。和歌・古典の素養と独学により若くしてあれだけの文章が書けたのかと感心させられます。

さておまけでゆかりの場所をもう一つ、菊坂の隣西片は師匠とした半井桃水が一時住んだところ。二人の関係は森まゆみさんの著書がおもしろい。「小説修行をよそに、二人の間になにかがあったかどうか。(略)裏付ける証拠はないので霧の中です。」(『こんにちは一葉さん』NHKライブラリー)

一葉が生活苦の中でも文学への矜持を持ち成長していく姿は新刊『樋口一葉赤貧日記』(伊藤氏貴著、中央公論新社)に興味深く描かれています。龍泉寺で小商いを始める頃の日記には「文学は糊口の為になすべき物にあらず。おもいの馳するまゝ、こゝろの趣くまゝにこそ筆は取らぬ」と。さらに一葉の号は「達磨大師が一葉の舟に乗って長江を渡る絵にちなんでおあしがないと洒落た」もので、作家として生きていくならば『あしなし』も覚悟した。「葬式に出る金すらないわが身を読み『我こそはだるま大師に成れにけれ』とぶらはんにもあしなしにして』・・・開き直って、自らの苦境を諧謔的に見ている。」

そして文芸誌に作品が発表続くようになると「我は人の世に痛苦と失望とをなぐさめんために、うまれ来つる詩のかみの子なり。(略)わが詩は人のいのちとなりぬべきなり。」と宣言するまでに。かっこいい。

24歳での終の棲家は旧丸山福山町(まいばすけつとの横に碑)。ここで町の女たちの代筆を引き受けたりしながら、奇跡の十四か月を駆け抜けた。



●幼少期の弓町・本郷元町

舟山 憲一

私は生まれてから大学卒業まで弓町(現本郷一丁目)で育った。小学校は元町小学校、中学校は第四中学校でいずれも過疎化で現在は本郷小学校、本郷台中学校に統合され母校は存在しない。その後現在の本駒込三丁目に引越し50年以上経つがわが心の故郷は圧倒的に弓町・元町界隈である。

幼少期の自宅の周りは旅館街で種田一族の朝陽館、本郷館、ふじや旅館と清水別館など修学旅行や中日ドラゴンズの宿舍などとして賑わった。子供同志が友達のため昼間の旅館はかくれんぼの格好の場所にもなっていた。後楽園球場が至近でミサイル打線の大毎オリオンズ(現ロッテ)を応援に良く通った。文京区で一番大木の大クスノキも弓町内にある。刑法で著名な小野清一郎氏の邸宅も近隣にあった。

小学校へは新旧岐坂を横切って通った。旧壱岐坂の上は大横丁の商店街で縁日が行われるほど賑わい、商店の友だちも数多くいた。旧壱岐坂のマンションには後年瀬戸内寂聴も住んでいたという。三河稲荷神社は家康公が三河の国から江戸城内に造営奉還し、その後当地に移転したもので由緒ある。

元町小学校隣接の元町公園のテラスからは外堀通りと神田川の向こうを走る中央線・総武線の国電(現JR)が臨め、右手には富士山を眺める絶好の風景だったが現在小学校は順天堂との連携事業である再開発が進んでいる。近隣には近年女子で東大進学最多を競う桜蔭学園や家光公の弟忠長所縁の昌清寺、水道歴史館などがある。

水道橋交差点角には戦前、戦後を通して講道館があった。丸ノ内線開通(昭和29年)間もなく現在の場所に移転し、跡地は後楽園ジムとしてプロレスの力道山やボクシングの世界戦などが行われていた。また、当時後楽園には競輪場があったが、景観風紀を損なうと反対運動もあり閉鎖されその跡地に現在の東京ドームが建設されたのです。などなど想い出多きわがふるさと弓町・元町界隈であります。



友の会の歩み 令和4年度

■講演会 参加者 76名

5月13日(金)

「地図で読む文京区の歴史」

講師：芳賀啓氏（地図研究者・日本国際地図学会評議員）

■第1回史跡巡り 参加者 79名

6月1日(水)

「お台場陸上と南極観測船「宗谷」乗船」

■第2回史跡巡り 参加者 78名

6月21日(火)

「神保町界隈の老舗名店・銘店を巡る」

■講演会 参加者 62名

9月27日(火)

「後樂園と六義園一文京区の大名庭園を中心にして」

講師：吉河功氏（日本庭園研究者・作庭家・日本庭園研究会会長）

■第3回史跡巡り 参加者 59名

10月27日(木)

「護国寺～江戸川橋地藏通り商店街の区境散歩・豊島区と新宿区」

■バス見学会 参加者 41名

11月29日(火)

「常陸府中藩の故郷石岡から筑波山大御堂へ」

■第4回史跡巡り 参加者 44名

12月14日(水)

「都電荒川線沿線逍遥～早稲田から大塚まで」

■第5回史跡巡り 参加者 75名

1月7日(土)

「谷中七福神巡り」

■講演会 参加者 41名

2月10日(金)

「鷗外先生とわたし」

講師：伊藤比呂美氏（詩人・早稲田大学講師）

■第6回史跡巡り 参加者 78名

3月28日(火)

「旧染井村・藍染川源流と本妙寺探索」

その他「友の会だより」年3回発行、増刊号「花時計」年1回発行、役員会月1回開催、文京まち案内(年13回)、館主催史跡巡り4回実施、生涯学習フェア展示参加(会員募集等)

友の会へのお誘い

友の会会員になると、文京ふるさと歴史館の入館料が免除になります。また、歴史館の特別展・歴史講座等事業のご案内をお届けします。

さらに、友の会では独自の活動として文化財や博物館の見学会や史跡巡り、講演会、会員の研究発表などを行っています。

また平成22年度には、永年にわたる活動が評価され、「生涯学習事業関係団体」として文京区区政功労者発表を受け、区長より表彰状と銀杯が授与されました。

文京区民はもちろん、区外の方でも入会できます。会費は年間1,500円、行事に参加するときは実費を徴収させていただきます。詳しくは、友の会事務局までご連絡ください。

【連絡先】〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29
電話 03(3818)7221
文京ふるさと歴史館内 友の会事務局



バス見学会（石岡）・陣屋門



第5回史跡巡り（谷中七福神巡り）



講演会（鷗外先生とわたし）

「文京まち案内」へのお誘い

文京ふるさと歴史館友の会ボランティアガイド「文京まち案内」は、平成11年に発足しました。「文京区の良さを伝えたい、地域のために役に立ちたい」というのが結成の目的です。ガイドの依頼は各地からあり、少人数のグループから50人を超える団体まで、さまざまな依頼に対応しています。

文京を訪れたい、文京のまちを歩きたい、歴史や文化をもっと知りたいと思ったとき、ぜひ「文京まち案内」をご利用ください。

また、文京区の歴史に興味がある方、歩くのが好きな方、人との出会いを楽しみたい方、「文京まち案内」に入ってみませんか。メンバーは現在10名。初めての方でも自主研修会に参加し、経験者と組んで案内するうちに知識が身につくので心配ありません。自分の勉強にもなりますし、終わった時、先方が満足し感謝していただければ最高の喜びです。意欲のある方は、ぜひ友の会事務局までお問い合わせください。